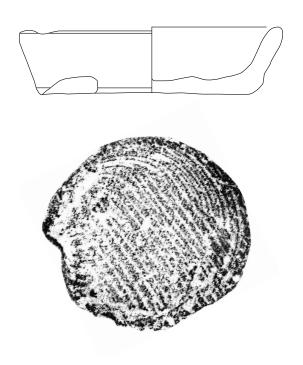
島原市内遺跡範囲確認調查報告書 2

【令和3年度調查分】



寺中 B 遺跡 TP7 SP1 出土遺物 (S = 1/1)

2023年

島原市教育委員会

島原市文化財調查報告書 第21集 島原市内遺跡範囲確認調查報告書 2

【令和3年度調查分】

2023年

島原市教育委員会

はじめに

島原市には約100箇所の遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)があります。これら遺跡は私たちが暮らす地域の歴史を物語る貴重な国民の共有財産です。私たち一人一人にこれらを適切に保存・活用し、後世の人々に伝えていく責務があります。

島原市教育委員会では、国・県等の公共事業に伴う開発や民間 開発の際に、必要に応じ範囲確認調査等を行い、遺跡が残存する 場合、開発者との協議を行い、遺跡の保護措置を講じることがで きるようお願いしております。協議の結果やむを得ず保護ができ ない場合においては記録保存を目的とした発掘調査を実施してい ます。

令和3年度は、一野地区の基盤整備事業に伴う上一野遺跡の範 囲確認調査を中心に実施しました。

本書は、令和3年度に島原市教育委員会が行った全ての範囲確認調査の結果について掲載しております。本書が市民の皆様の地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いです。

令和5(2023)年3月

島原市教育委員会 教育長 森本 和孝

例 言

- 1 本書は島原市における埋蔵文化財保護行政の現状と島原市教育委員会が令和3年度に実施した範囲確認調査の内容を収録している。
- 2 調査は、国の国宝重要文化財等保存整備補助金 (市内遺跡調査事業)及び長崎県指定文化財保存整備事業補助金を受け、島原市教育委員会社会教育課文化財保護推進室において文化財の調査、保護、活用事業として実施した。
- 3 調査の組織

調査統括 社会教育課長 中村 憲一

社会教育課 文化財保護推進室長 倉本 徹也

社会教育課 文化財保護推進室主任 吉田 信也

調查員 社会教育課 文化財保護推進室主任 大津 英稔

調查員 社会教育課 文化財保護推進室主査 吉岡 慈文

調查員 社会教育課 文化財保護推進室主事 山下 祐雨

- 4 調査概要の遺跡位置図は長崎県教育庁学芸文化課のウェブコンテンツ『長崎県遺跡地図』 (http://iseki.news.ed.jp/iseki/controller/iseki.php) を使用している。
- 5 調査概要については各遺跡の調査担当者と調査概要執筆者を文末に記している。
- 6 発掘作業は、浅野克巳・加藤健・木村光江・倉永新子・倉永敏勝・田浦哲也・中島輝幸・野田 守彦・馬場紀聡・林田シズエ・姫田壽文・町田敏夫・森本正利の協力を得て実施した。
- 7 遺物実測・拓本は吉田敏子・林聖子の協力を得て、吉岡・山下が行い、遺物図のデジタルトレース・遺物写真撮影は、吉岡・山下が行った。遺物所見は山下が行った。遺構図のデジタルトレースは吉岡が行った。
- 8 本書の執筆・編集は山下・吉岡が行った。
- 9 範囲確認調査により出土した遺物や実測図等は島原市教育委員会が保管している。

凡例

- 1 原則として遺構の測定値はm単位を使用した。
- 2 土色の表記については『新版 標準土色帖』に準拠した。
- 3 出土遺物写真は任意縮尺で掲載している。

本 文 目 次

第1章	島原市の埋蔵																	
第1節	周知の埋蔵文件	化財包蔵	地•	• •	•	• •	• •		•		•		•	•	•	•	•	• 3
第2節	各種統計・・		• •	• •	•	• •	• •	• •	•	• •	•	• •	•	•	•	•	•	• 6
第2章	令和3年度調																	
第1節	公共事業に伴	う範囲確	認調	査・	•	• •	• •	• •	•	• •	•	• •	•	•	•	•	•	• 8
	下源在高野遺跡																	
2 上	上一野遺跡・・			• •	•	• •	• •		•		•		•	•	•	•	•	• 9
3 西	川遺跡・・・			• •	•	• •	• •		•	• •	•	• •	•	•	•	•	•	• 26
4 目	木遺跡・・・				•				•		•		•	•	•	•	•	• 28
5 寺	F中 B 遺跡・・				•			•	•		•		•	•	•	•	•	• 32
6 寺	宇中城跡・・・				•				•		•		•	•	•	•	•	• 38
第2節	民間事業に伴	う範囲確	認調	查•	•				•		•		•	•	•	•	•	• 43
1 島	号原城跡・・・		• •	• •	•	• •	• •	• •	•	• •	•	• •	•	•	•	•	•	• 43
第3章	総括・・・・				•				•		•		•	•	•	•	•	• 45

第1章 島原市の埋蔵文化財について

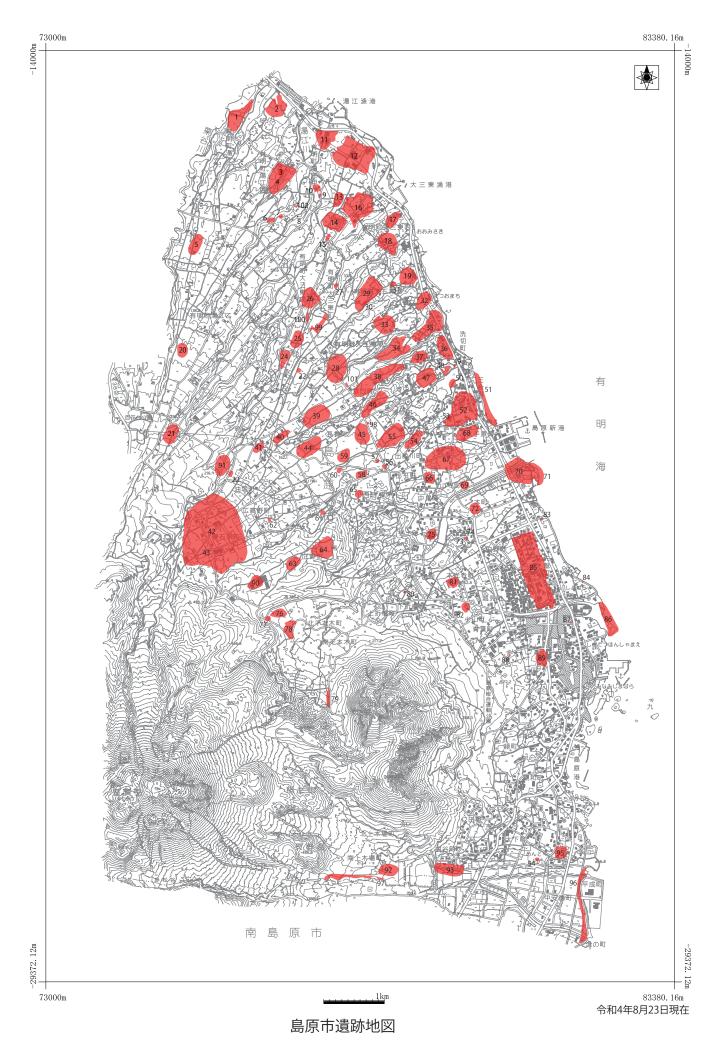
第1節 周知の埋蔵文化財包蔵地

本書刊行時現在、島原市内には 102 箇所の「周知の埋蔵文化財包蔵地」がある。

【表1】島原市内の「周知の埋蔵文化財包蔵地」リスト

No.	遺跡名	種別	時代
1	景華園遺跡	墳墓	弥生
2	上中野遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
	原口B遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
4	原口A遺跡	遺物包含地	縄文/弥生
5	下油堀遺跡	遺物包含地	縄文/弥生
6	上油堀遺跡	遺物包含地	縄文/弥生
7	礫石原遺跡	墳墓 / 集落跡	縄文
8	礫石原古墓	墳墓	古代
9	長貫A遺跡	遺物包含地	旧石器 / 縄文
	長貫B遺跡	遺物包含地	縄文/弥生
	寺中A遺跡	遺物包含地	弥生
	寺中B遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
	寺中城跡	城館跡	中世
	中野川遺跡	遺物包含地	弥生
	西川遺跡	遺物包含地	
16	三会下町海中遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
	畑中遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳 / 古代 / 中世
18	三会中学校遺跡	遺物包含地	縄文
	津吹遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
	鬼の家古墳	古墳	古墳
21	人塚古墳	古墳	古墳
	大塚下遺跡	遺物包含地	中世
	南楠沢遺跡	遺物包含地	弥生
	大塚後遺跡	遺物包含地	縄文 / 弥生
	居無遺跡 居無遺跡	遺物包含地	縄文
	大タブ沢遺跡	遺物包含地	縄文/中世
27	弓弦遺跡	遺物包含地	縄文
	立野遺跡	遺物包含地	縄文
	坪浦遺跡	遺物包含地	縄文
	山崎遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
	稗田原遺跡	遺物包含地	縄文/弥生/中世
32	下宮遺跡	遺物包含地	縄文/弥生/中世
	釘原遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
	平の山A遺跡	遺物包含地	縄文
	肥賀太郎遺跡	遺物包含地	縄文
	平の山B遺跡	遺物包含地	縄文
	丸尾城跡	城館跡	中世
	熊野神社遺跡	生産遺跡	古代 / 中世
	熊野神社窯跡	窯跡	近世
	道田遺跡	墳墓	弥生
	沖田遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
	沖田海中遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
	沖田畷遺跡	遺物包含地 / 祭祀跡	古墳
	長浜台場跡	台場跡	近世
	島原城跡	城館跡	近世
	大手浜遺跡	遺物包含地	縄文/弥生/古墳/古代/中世/近世
	浜の城跡	城館跡	近世
	小山館跡	城館跡	中世
	大櫃遺跡 「大櫃遺跡	遺物包含地	縄文
50	大恒退跡 上の原遺跡	遺物包含地	
	工の原退跡 安徳城跡	城館跡	中世
51	上馬場遺跡	墳墓	古墳
	上局場退跡 中南遺跡	現基 遺物包含地	白頃 縄文 / 弥生 / 古墳
	中木場遺跡	退物包含地 遺物包含地	縄文 / 弥生 / 古頃 縄文 / 弥生 / 古墳 / 古代 / 中世
54	中小场退跡	退彻巴古地	

55	南上木場遺跡	遺物包含地	縄文/弥生
56	大塚古墳	古墳	古墳
57	長塚古墳	古墳	古墳
	小塚古墳	古墳	古墳
		古墳	古墳
		1	縄文
	馬渡遺跡	遺物包含地	
	権現脇遺跡	遺物包含地	縄文
	戸田向原遺跡 (本体) 日本	遺物包含地	縄文/弥生
	釘崎城跡	城館跡	中世
	清水山遺跡	遺物包含地	縄文
	森岡遺跡	遺物包含地	縄文
66	二ツ石遺跡	遺物包含地	縄文
	妙法塚遺跡	墳墓	弥生 / 古墳
	中田遺跡	遺物包含地	縄文
	大野浜城跡	城館跡	中世
	平山古墳	古墳	古墳
	大野城跡	城館跡	中世
72	大野原遺跡	遺物包含地 / 墳墓	縄文/弥生/古墳/古代
73	甘木遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳
74	上松高野遺跡	遺物包含地	弥生
75	下源在高野遺跡	遺物包含地	縄文
76	上源在高野遺跡	遺物包含地	縄文
77	東空閑城跡	城館跡	中世
78	才木遺跡	遺物包含地	縄文
79	小原下遺跡	集落跡 / 遺物包含地	縄文/弥生/中世
	小原上遺跡	遺物包含地	縄文
81	松尾遺跡	遺物包含地	古墳 / 古代
82	山ノ内遺跡	遺物包含地	古墳 / 古代
83	一野遺跡	遺物包含地 / 古墳	縄文/弥生/古墳
84	上一野遺跡	遺物包含地	旧石器 / 縄文 / 弥生 / 古墳
85	灰ノ久保遺跡	遺物包含地	縄文
86	久原遺跡	遺物包含地	縄文
87	山ノ内上横穴古墳	古墳	古墳
88	温泉神社台地遺跡	遺物包含地	縄文
89	六人道横穴古墳	古墳	古墳
90	一本松遺跡	遺物包含地	縄文
91	払山横穴古墳	古墳	古墳
	庄司屋敷古墳	古墳	古墳
	小原下B地点遺跡	遺物包含地	縄文
	塔ノ鼻横穴遺跡	墳墓	古墳
	国土神社裏横穴	墳墓	古墳
	庄司屋敷遺跡	遺物包含地	弥生 / 中世
	東鷹野遺跡	遺物包含地	縄文
	大高野遺跡	遺物包含地	弥生 / 古墳 / 中世
	楠沢上遺跡	遺物包含地	旧石器 / 縄文 / 弥生
	下雨粒木遺跡	遺物包含地	旧石器 / 縄文 / 弥生
	上新高野遺跡	遺物包含地	旧石器/縄文/弥生
	後久原遺跡	遺物包含地	縄文/弥生
102	[1久八八八巻明]	NED TO	作人 / 小上



第2節 各種統計

1 令和3年度埋蔵文化財存否照会の統計

令和3年度の埋蔵文化財存否照会の総数は242件であった。そのうち「周知の埋蔵文化財包蔵地」内にかかる照会は40件であった。島原市においては建設部都市整備課と教育委員会社会教育課の間で建築確認申請にかかる情報を共有しており、建築確認関係では令和3年度は81件の照会を行った。(吉岡)

【 丰 ~	1	令和3年度島原市埋蔵文化財存否照会件数表	Ξ
【衣∠	<u> </u>	7443年发岛尽见生威义化划行台思云什致衣	?

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
遺跡内	1	2	4	4	6	4	3	2	5	3	4	2	40
遺跡外	0	0	0	2	1	2	1	0	0	1			8
(隣接地)	U	U	U		1)	1	U		1			0
遺跡外	25	23	14	21	16	19	9	12	13	12	8	11	183
その他	1	0	0	2	1	0	1	1	1	0	2	2	11
合計	27	25	18	29	24	26	14	15	19	16	14	15	242

2 令和3年度埋蔵文化財発掘の届出(通知)件数

令和3年度の周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等の届出・通知(文化財保護法第93条・第94条)は、届出23件・通知26件であった。工事届出通知件数は、埋蔵文化財保護に対する啓発活動の強化等により増加傾向にある。中でも島原道路関連事業や三会原第3地区及び第4地区の基盤整備事業等、県営大型事業に伴う通知が多かった。

開発事業に伴って島原市教育委員会が実施した範囲確認調査の実施件数は7件(15箇所)である。また、無届工事は公共事業で1件確認した。令和2年度の無届工事が計14件であったことからすると著しく減少している。これらは、埋蔵文化財の取扱いに伴う事務処理の周知や、埋蔵文化財存否照会等のセーフティーネットが徐々に整備されてきたことが一因として考えられる。今後も事業主体者に対して埋蔵文化財事務についての説明を行い、理解を求める等の取組みを積極的に行うことで埋蔵文化財保護と開発事業の双方が円滑に進むよう取り組みを行っていく必要がある。

(吉岡)

【表3】令和3年度島原市埋蔵文化財発掘の届出一覧表

No.	受理日	遺跡名	区分	事業者	届出原因	対応
1	4月1日	中南遺跡	届出	個人	個人住宅新築	慎重工事
2	4月9日	島原城跡	届出	法人	ガス管入替	慎重工事
3	4月30日	才木遺跡	届出	個人	個人住宅新築	工事立会
4	5月6日	妙法塚遺跡	届出	法人	携带基地局設置	慎重工事
5	5月20日	灰ノ久保遺跡	届出	個人	造成工事・農業用倉庫・駐車場	工事立会
6	6月1日	島原城跡	届出	個人	個人住宅新築	工事立会
7	6月28日	大野原遺跡	届出	法人	防犯灯設置	慎重工事
8	7月8日	稗田原遺跡	届出	法人	携带基地局設置	工事立会
9	8月19日	景華園遺跡	届出	個人	個人住宅新築	慎重工事
10	8月19日	寺中城跡	届出	個人	自然崩壊による土砂撤去	工事立会
11	8月26日	畑中遺跡	届出	法人	既設マンホール撤去	慎重工事

12	9月10日	島原城跡	届出	個人	浄化槽埋設	調査後工事
13	11月26日	島原城跡	届出	個人	净化槽埋設	工事立会
14	11月26日	景華園遺跡	届出	個人	净化槽埋設	工事立会
15	11月30日	中南遺跡	届出	個人	倉庫新設	慎重工事
16	11月25日	丸尾城跡	届出	法人	電柱新設	慎重工事
17	12月21日	島原城跡	届出	法人	既設ガス管撤去	慎重工事
18	12月28日	島原城跡	届出	法人	既設ガス管入替	慎重工事
19	1月27日	一野遺跡	届出	法人	事務所新築	工事立会
20	2月17日	原口 B 遺跡	届出	法人	電柱新設	慎重工事
21	3月17日	島原城跡	届出	個人	竹根切除	R4 年度確認調査
22	3月24日	景華園遺跡	届出	個人	個人住宅・倉庫解体	R4 年度工事立会
23	3月25日	島原城跡	届出	個人	個人住宅・倉庫解体	慎重工事

【表4】令和3年度島原市埋蔵文化財発掘の通知一覧表

No.	受理日	遺跡名	区分	事業者	届出原因	対応
1	4月9日	津吹遺跡	通知	振興局	土壁工・地盤改良工	慎重工事
2	4月9日	長貫 B 遺跡	通知	振興局	石積工	慎重工事
3	4月9日	寺中 A 遺跡	通知	振興局	掘削工	慎重工事
4	5月11日	寺中 A 遺跡	通知	振興局	掘削工	慎重工事
5	5月25日	灰ノ久保遺跡	通知	振興局	掘削工	慎重工事
6	6月4日	庄司屋敷遺跡	通知	島原市	側溝設置	慎重工事
7	7月8日	島原城跡	通知	島原市	電線管埋設・ハンドホール設置	工事立会
8	7月30日	島原城跡	通知	島原市	側溝設置	工事立会
9	8月4日	島原城跡	通知	長崎県	埋設管盛替	工事立会
10	8月19日	島原城跡	通知	長崎県島原病院	住宅解体	慎重工事
11	8月19日	畑中遺跡	無届	振興局	舗装工	厳重注意
12	8月25日	礫石原遺跡	通知	振興局	農業基盤整備道路工	慎重工事
13	9月9日	鬼の家古墳	通知	振興局	掘削工	慎重工事
14	9月13日	島原城跡	通知	福岡高裁	浄化槽仮設	工事立会
15	9月27日	津吹遺跡	通知	振興局	道路土工他	慎重工事
16	9月27日	津吹遺跡	通知	振興局	道路土工他	慎重工事
17	9月28日	下油堀遺跡	通知	振興局	ガードレール設置他	慎重工事
18	9月28日	上油堀遺跡	通知	振興局	ガードレール設置他	慎重工事
19	9月28日	長貫 A 遺跡	通知	振興局	水止コンクリート敷設	慎重工事
20	11月8日	原口 B 遺跡	通知	振興局	道路土工他	慎重工事
21	11月10日	中田遺跡	通知	島原市	水道配水管敷設	工事立会
22	11月19日	稗田原遺跡	通知	島原市	市営住宅解体・造成	工事立会
23	12月6日	畑中遺跡	通知	振興局	舗装工・歩道敷設	慎重工事
24	12月8日	鬼の家古墳	通知	振興局	道路土工・地盤改良工他	慎重工事
25	12月13日	大塚下遺跡	通知	振興局	土工・ブッロク積工他	慎重工事
26	12月28日	大高野遺跡	通知	振興局	道路土工・地盤改良工他	慎重工事

島原市教育委員会が、文化財保護法第 99 条第 1 項の規定に基づき実施した発掘調査について通知した件数は 6 件である。また、島原振興局が事業主体である東大地区、一野地区、中原・寺中地区の基盤整備事業に関連し、事前の範囲確認調査を下源在高野遺跡・上一野遺跡・西川遺跡・甘木遺跡・寺中 B 遺跡・寺中城跡で実施した。

【表5】令和3年度島原市埋蔵文化財発掘の99条通知一覧表

No.	通知日	遺跡名	調査原因	備考
1	5月10日	下源在高野遺跡	東大地区基盤整備事業	継続協議
2	5月25日	上一野遺跡	一野地区基盤整備事業	継続協議
3	6月7日	西川遺跡	中原・寺中地区基盤整備事業	継続協議
4	7月14日	甘木遺跡	東大地区基盤整備事業	継続協議
5	7月16日	寺中 B 遺跡	中原・寺中地区基盤整備事業	継続協議
6	11月8日	寺中城跡	中原・寺中地区基盤整備事業	継続協議

第2章 令和3年度調查概要

第1節 公共事業に伴う範囲確認調査

1 下源在高野遺跡

調査期間:令和3年5月10日~令和3年5月11日

調査面積:4㎡

調査原因:東大地区基盤整備事業

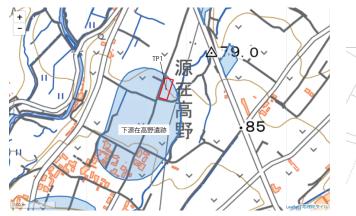
調查担当:吉岡

調杳概要:

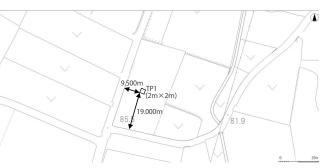
今回調査を実施した地点は台地の北東端、下源在高野遺跡の北東端に位置する。台地は 南西より北西になだらかに傾斜しており、南西側とは2~3mの比高差がある。

調査地周辺は農業基盤整備事業推進地区となっていることから、範囲確認調査を実施した。 調査は $2m \times 2m$ の調査坑を設定し、表土からネジリ鎌等を用いて人力掘削した。調査の結果、表土直下に暗褐色混パミス硬質土(カシノミ層)が確認できたことから、当該地は畑地造成により削平されていると判断した。なお、カシノミ層内からも遺物は確認できなかった。

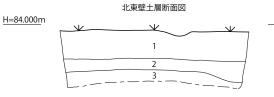
なお、調査地周辺の状況から当該遺跡の事業計画対象地内においては、包含層が残存する可能性がある箇所も認められるため、当初の計画に追加して範囲確認調査の実施が必要と判断する。



下源在高野遺跡調査位置図



下源在高野遺跡 TP1 配置図



TP1 北東壁土層断面図 (S=1/40)

(土層注記)

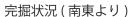
1層:黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2) 耕作土 2層:暗褐色混パミス硬質土 (Hue10YR3/3)

5mm~2cm 大の礫を15%, 白色粒を80%含む

3 層: 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)

暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4) を 70%, 黄褐色砂質土 (Hue10YR5/8) を 5% 含む







作業状況

2 上一野遺跡

調査期間:令和3年5月25日~令和3年8月26日

調査面積:28.8㎡

調查原因:一野地区基盤整備事業

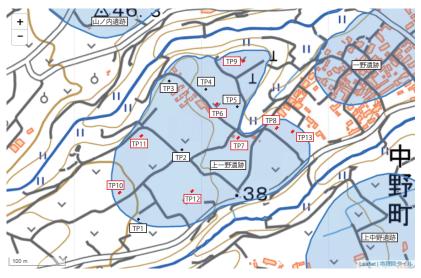
調査担当:吉岡・山下

調査概要:

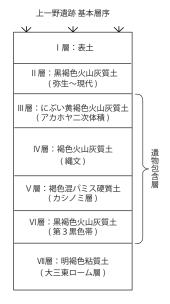
当該遺跡は、雲仙火山から舌状に延びる台地の中央部に立地し南西から北東にむけてなだらかに傾斜している。調査地及び周辺は農業基盤整備事業推進地区であることから、範囲確認調査を実施した。令和3年度の調査は上一野遺跡内ほぼ全域に調査坑を設定した。1.8 m×2 mの調査坑 TP6~13の計8か所を表土から人力掘削した。

調査の結果、TP6 \sim 13 で遺物包含層の残存を確認した。また、遺構についても TP11 を除いて合わせてピット 16 基、不明遺構 2 基を確認した。

また、今年度までの調査結果を受けて、当該遺跡隣接地を分布調査した結果、上一野遺跡と同時期の遺物を地表上に多数確認したため上一野遺跡の範囲を拡大した。(山下)



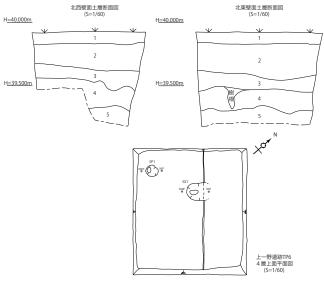
上一野遺跡 TP 配置図 (TP1 ~ TP5 は過年度実施)



上一野遺跡基本層序

上一野遺跡【TP6】

表土、造成土及び耕作土下位に5層暗褐色混パミス硬質土(カシノミ層)(Hue10YR3/4)、6層 黒褐色混パミス硬質土(第3黒色帯)(Hue10YR2/2)を確認した。遺構は、カシノミ層(5層) 検出面で時期不明のピット2基(SP1・SX1)を確認した。また、カシノミ層から黒曜石が4点出 土した。



TP6 土層断面図・4 層上面平面図 (S = 1/60)



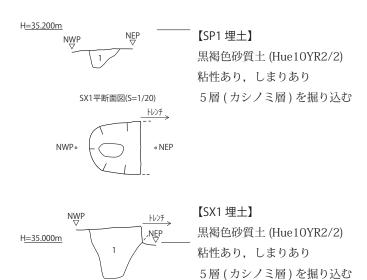
TP6 SP1 完掘状況 (南東より)



TP6 SP2 完掘状況(南東より)



SP1平断面図(S=1/20)



TP6 4層上面検出遺構詳細図 (S = 1/20)



TP6 完掘状況(南西より)

1層: 黒褐色砂礫土 (Hue10YR2/2)

粘性有, しまり有.1~3cm 大の礫を15%程含む.

2 層: 黒褐色砂礫土 (Hue10YR2/3)

粘性有, しまり有.5mm~1cm 大の礫を15%程含む.

褐色砂質土 (Hue7.5YR4/6) を 30% 程含む. 暗褐色砂質土 (Hue7.5YR3/4) を 10% 程含む.

黒褐色砂質土 (Hue7.5YR2/2) を 5% 程含む.

3 層: 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)(旧耕作土)

粘性有,しまり有.

4層:暗褐色混パミス硬質土(Hue10YR3/4)(基本層序V層相当)

粘性有,しまり非常に強.

黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3) を 10% 程含む. いわゆる「カシノミ層」.

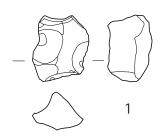
5層: 黒褐色混パミス硬質土 (Hue10YR2/2)(基本層序VI層相当)

粘性有,しまり非常に強.

5層直上より黒曜石3点出土.

TP6 出土遺物

1は、黒曜石の石核で4層のいわゆるカシノミ層から出土し、表面が著しく風化している。不純物は少ない。



TP6 4層出土遺物 (S = 1/1)

No	層位	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
1	4	石核	黒曜石	1.75	1.40	1.15	3.00	

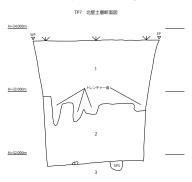
TP6 出土石器観察表

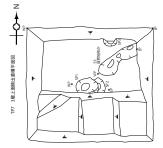
上一野遺跡【TP7】

表土直下に 2 層黒褐色火山灰質土(Hue10 YR3/1・弥生~現代の遺物包含層)、3 層にぶい黄褐色火山灰質土(Hue10 YR4/3・アカホヤ二次堆積土)を確認した。遺構は、3 層検出面で時期不明のピット 3 基(SP1 \sim 3)を確認した。

3層以下は当該調査での掘削深度が深く、作業員の完全確保が困難であることから調査を切り上げたが、周辺調査状況から遺物包含層が存在する可能性が高い。

当該地は凹地であるが、表土が1m以上も堆積していることから旧地形に盛土を行い、畑地としていることが想定できる。





3 層上面平面図・北壁土層断面図 (S = 1/60)



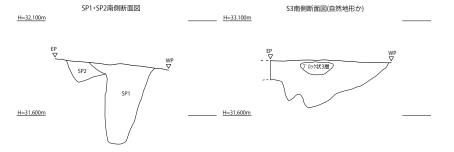
TP7 完掘状況(南西より)

【SP1 埋土】

黒褐色火山灰土 (Hue10YR3/1) 粘性やや弱, しまりやや弱 0.1mm以下の土壌を主体とし、 0.3cm 大の隅丸礫を少量含む

【SP2 埋土】

黒褐色火山灰土 (Hue10YR3/2) 粘性やや弱, しまりやや弱 0.1mm以下の土壌を主体とし、 0.1cm 大の隅丸礫を少量含む



上一野遺跡 TP7 SP1・SP2・S3 (S = 1/20)

【SP3 埋土】

黒褐色火山灰土 (Hue10YR3/2) 粘性やや弱,しまりやや弱 0.1mm 以下の土壌を主体とする



SP1・SP2 完掘状況



SP3 完掘状況

1層:表土(耕作土)

2 層: 黒褐色火山灰土 (Hue10YR3/1)(基本層序Ⅱ層相当)

粘性やや弱,しまりやや有.

0.2 ~ 0.4cm 大赤色粒子少量含む .1cm 大の隅丸デイサイト極少量含む .

弥生土器片,ネジ等が出土.

3層: にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR4/3)(基本層序Ⅲ層相当)

粘性弱,しまりやや弱.

0.3cm 大の隅丸デイサイト少量含む .0.1cm 大の白色粒子を中量含む.

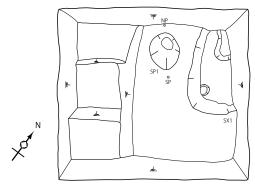
雲母片中量含む.

※調査の安全性を考慮し掘削は3層までで終了した. 堆積状況から3層以下にも包含層が残存する可能性が高い.

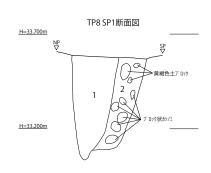
上一野遺跡【TP8】

表土直下に3層にぶい黄褐色火山灰質土(アカホヤ二次堆積)、4層褐灰色火山灰質土(Hue10 YR4/1)、5層褐灰色混パミス硬質土(カシノミ層)(Hue10YR5/1)、6層黒褐色混パミス硬質土(第3黒色帯)(Hue7.5YR3/1)、7層明褐色粘質土(大三東ローム層)を確認した。

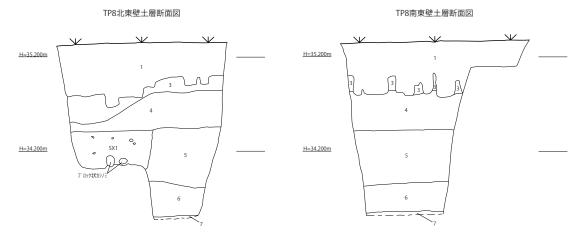
遺構は、カシノミ層(5層)検出面で時期不明のピット(柱穴)1基(SP1)と時期不明の不明遺構1基(SX1)を確認した。



TP8 5 層上面平面図 (S = 1/40)



TP8 SP1(S = 1/20)



TP8 東壁・南壁土層断面図 (S = 1/40)

1層:表土(耕作土)

3 層: にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR4/3)(基本層序Ⅲ層相当) 粘性弱, しまりやや弱.

0.3cm 大の隅丸デイサイト少量含む .0.1cm 大の白色粒子を中量含む . 雲母片中量含む .

4 層: 褐灰色火山灰質土 (Hue10YR4/1)(基本層序IV層相当) 粘性やや弱, しまりやや有.1cm 大の隅丸デイサイト少量含む. 0.1mm以下の土壌主体層.

5層: 褐灰色混パミス硬質土 (Hue10YR5/1)(基本層序V層相当) 粘性弱, しまり非常に強.

0.1cm 大のパミスを多量に含む .0.2cm 大の隅丸炭化物を少量含む.

6 層: 黒褐色火山灰質土 (Hue7.5YR3/1)(基本層序VI層相当) 粘性弱, しまり有.

0.1mm以下の土壌主体層.

7 層: 明褐色粘質土 (Hue7.5YR5/6)(基本層序VII層相当) 粘性有, しまり有.0.1mm以下の土壌主体層. 0.1cm 大の雲母片を少量含む.

【SX1 埋土】

1 層: 褐灰色火山灰質土 (Hue10YR4/1) 4 層土壌が主に堆積する .5 層カシノミがブロック状に混ざる . 遺物なし

【SP1 埋土】

1層:褐灰色火山灰質土 (Hue10YR4/1) 土壌主体,遺物なし

2層:褐灰色火山灰質土 (Hue7.5YR4/1) 上位に3層,下位に5層が混じる,遺物なし.



TP8 SP1(南より)

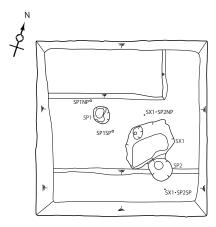


TP8 完掘状況(南西より)

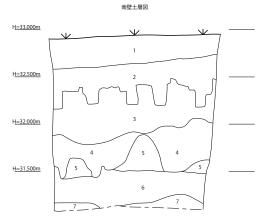
上一野遺跡【TP9】

表土及び旧耕作土下位に 3 層褐色砂質土 (Hue10 YR4/6)、4 層暗褐色砂質土 (風倒木の可能性) (Hue10 YR3/3)、5 層褐色砂礫土 (風倒木の可能性) (Hue10 YR4/6)、6 層 (第 V 層) 褐色混パミス硬質土 (カシノミ層) (Hue10YR3/3)、7 層 (第 VI層) 暗褐色砂質土 (第 3 黒色帯) (Hue10YR3/3) を確認した。

遺構は、3層から不明遺構1基(SX1)、ピット1基(SP2)、5層からピット1基(SP3)を確認した。



TP9 平面図 (S = 1/40)



TP9 南壁土層図 (S = 1/40)

【土層注記】

1層:表土(耕作土)

2 層: 暗褐色砂礫土 (Hue10YR3/3) (旧耕作土).

3層:褐色砂質土 (Hue10YR4/6)

粘性有,しまり有.遺物あり.2層よりトレンチャーの撹乱を受ける.

4層:暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3) (風倒木の可能性あり)

粘性有,しまりやや強.

褐色砂礫土 (Hue10YR4/6) をブロック状に 30%程含む.

5層: 褐色砂礫土 (Hue10YR4/6) (風倒木の可能性あり)

粘性有,しまり有.

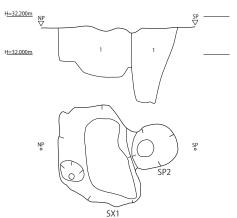
6層をブロック状に70%程含む.

6層: 褐色混パミス硬質土 (Hue10YR3/3) (カシノミ層) (基本層序V層相当)

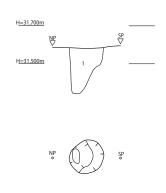
褐色砂質土 (Hue10YR4/6) を 30%程含む. 遺物あり.

7層: 褐色混パミス硬質土 (Hue10YR3/3)

粘性有,しまり有.



SX1 · SP2 個別遺構図 (S = 1/20)



SP3 個別遺構図 (S = 1/20)

【SX1 埋土】

1層:にぶい黄褐色砂質土 (Hue10YR5/3) 粘性弱, しまり有,細粒砂主体.遺物なし.

【SP2 埋土】

1 層:暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4) 粘性あり, しまり有.遺物なし.

【SP3 埋土】

1 層: 褐灰色火山灰質土 (Hue10YR2/3) 粘性あり, しまり有. 遺物なし.



TP9 3 層検出状況 (西より)



TP9 SX1 半截状況 (北西より)



TP9 SX1・SP2 完掘状況 (南より)



TP9 SP3 完掘状況 (南より)



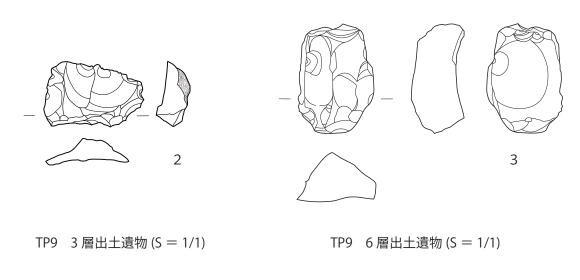
TP9 完掘状況 (北より)



TP9 遠景 (北より)

TP9 出土遺物

2は黒曜石の剥片である。一部残存する自然面は、三日月状の窪みが連続しているアバタ状である。色調は、灰色である。不純物は少ない。3は黒曜石の石核である。表面は風化している。4は縄文時代早期の一野式土器の深鉢である。口縁部は平坦にナデ調整される。外面には横位の貝殻条痕が施される。胎土には、角閃石、軽石、石英、雲母を含む。残存高 2.30cm。





TP9 4層出土遺物 (S = 1/1)

No	層位	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
2	3	剥片	黒曜石	1.65	2.60	0.60	2.88	
3	6	石核	黒曜石	2.90	2.00	1.30	8.46	

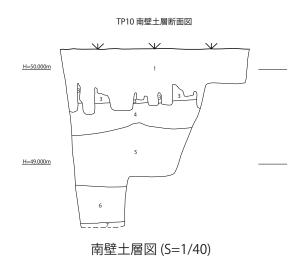
TP9 出土石器観察表

N	0	層位	器種	調整		色調		焼成	胎土	備考
				外面	内面	外面	内面			
4		4	深鉢	横位の貝殻条痕	ナデ	Hue10YR3/1	Hue10YR5/1	良好	精緻	

TP9 出土土器観察表

上一野遺跡【TP 10】

層位は、TP8と同様の堆積状況であった。遺構は、4層検出面で時期不明のピット3基(SP1~3)、カシノミ層(5層)検出面で時期不明のピット2基(SP4・6)、弥生時代までに埋没したと考えられるピット1基(SP5)を確認した。



【土層注記】

1層:表土(耕作土)

3層: にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR4/3)(基本層序Ⅲ層相当) 粘性弱, しまりやや弱.

0.3cm 大の隅丸デイサイト少量含む .0.1cm 大の白色粒子を中量含む . 雲母片中量含む .

4層:褐灰色火山灰質土 (Hue10YR4/1)(基本層序IV層相当)

粘性やや弱.しまりやや有.

1cm 大の隅丸デイサイト少量含む.

0.1cm 隅丸炭化物少量含む.

 $0.1 \sim 0.3$ cm デイサイト少量含む.

0.1㎜以下の土壌主体層.

5層: 褐灰色混パミス硬質土 (Hue10YR5/1)(基本層序V層相当)

粘性弱,しまり非常に強.

0.1cm 大のパミスを多量に含む.

0.2~0.5cm 隅丸パミス中量含む.

0.2 ~ 0.4cm 大の隅丸炭化物を少量含む.

6 層: 黒褐色火山灰質土 (Hue7.5YR3/1)(基本層序VI層相当)

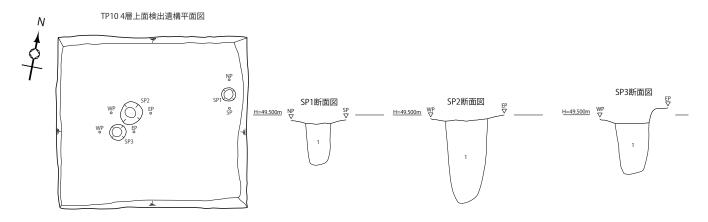
粘性弱,しまり有.

0.1mm以下の土壌主体層.

7 層:明褐色粘質土 (Hue7.5YR5/6)(基本層序VII層相当)

粘性有, しまり有.0.1mm以下の土壌主体層.

0.1cm 大の雲母片を少量含む.



4層上面平面図 (S=1/40)

SP1・SP2・SP3 断面図 (S=1/20)

【SP1 埋土】

1 層: 黒褐色火山灰質土 (Hue10YR3/2)

しまり弱, 粘性やや弱

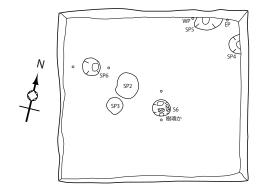
TP10の3層が0.5cm大のブロック状に少量混じる

0.2cm 大の雲母片を少量含む

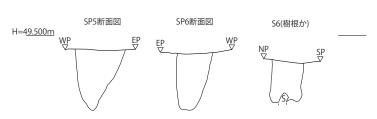
0.1cm 大の隅丸パミスを少量含む

【SP2・SP3 埋土】

1 層:暗褐色火山灰質土 (Hue10YR3/3) しまりやや弱, 粘性やや弱 0.1 ~ 0.3cm 大の角状パミスを少量含む



5 層上面平面図 (S=1/40)



SP5・SP6・S6 断面図 (S=1/20)

【SP4・SP5・SP6 埋土】

1 層: 褐灰色火山灰質土 (Hue10YR4/1) 粘性やや弱, しまりやや有. TP10 の 4 層が堆積する.

SP 5からは弥生土器片が出土した



SP1 完掘状況(西より)



SP2 完掘状況(北より)



SP3 完掘状況(北より)



SP4 完掘状況(西より)



SP5 完掘状況(南より)



SP6 完掘状況(北より)



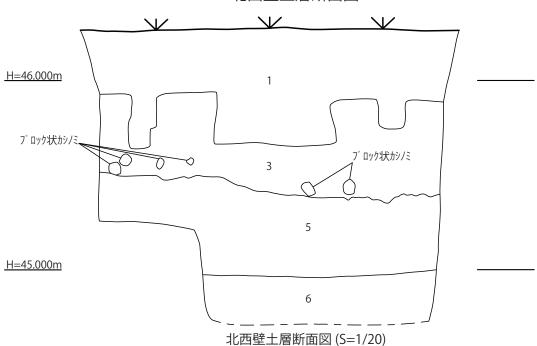
3 層検出状況(西より)



土層堆積状況(北西より)

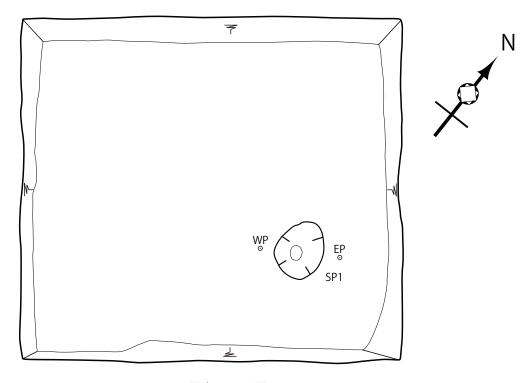
上一野遺跡【TP 11】

層位は、TP8と同様の堆積状況であった。遺構は、カシノミ層(V層)検出面で時期不明のピット 1 基(SP1)を確認した。

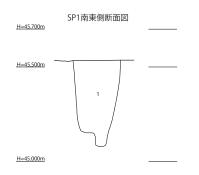


TP11 北西壁土層断面図

TP11 5層上面検出遺構平面図



5 層上面平面図 (S=1/20)



SP1 断面図 (S=1/20)

【SP1 埋土】

1 層: 黒褐色火山灰質土 (Hue7.5YR3/2) 粘性やや弱, しまりやや有 0.1mm 以下の土壌主体 1mm 以下の白色粒子を少量含む



SP1 完掘状況(南東より)



TP11 土層堆積状況(南より)

【土層注記】

1層:表土(耕作土)

3 層: にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR4/3)(基本層序Ⅲ層相当) 粘性弱, しまりやや弱.

0.3cm 大の隅丸デイサイト少量含む .0.1cm 大の白色粒子を中量含む . 雲母片中量含む .

4 層: 褐灰色火山灰質土 (Hue10YR4/1)(基本層序IV層相当) 粘性やや弱, しまりやや有.1cm 大の隅丸デイサイト少量含む. 0.1mm以下の土壌主体層.

5 層: 褐灰色混パミス硬質土 (Hue10YR5/1)(基本層序V層相当) 粘性弱, しまり非常に強.

0.1cm 大のパミスを多量に含む .0.2cm 大の隅丸炭化物を少量含む.

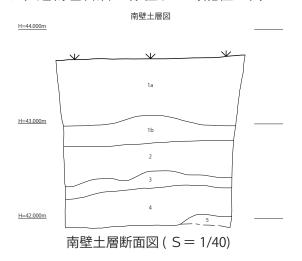
6 層: 黒褐色火山灰質土 (Hue7.5YR3/1)(基本層序VI層相当) 粘性弱, しまり有.

0.1mm以下の土壌主体層.

7 層: 明褐色粘質土 (Hue7.5YR5/6)(基本層序VII層相当) 粘性有, しまり有.0.1mm以下の土壌主体層. 0.1cm 大の雲母片を少量含む.

上一野遺跡【TP 12】

表土下位に2層は黒褐色火山灰質土 (Hue7.5YR2/2・弥生~現代)、3層暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4・縄文~弥生)、4層は褐色砂質土(Hue10YR4/6)、5層は黒褐色砂質土(Hue10YR2/2)を確認した。遺構は確認できなかったが、遺物は5層から黒曜石の剥片が出土した。5層以下は掘削深度が深く、作業員の安全を確保できないと判断したため、調査を中止したが、周辺調査状況から、遺物包含層が存在する可能性が高いと考えられる。





TP12 完掘状況 (西より)

【土層注記】

1a層: 表土(耕作土)

1b 層: 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)(旧耕作土) 粘性有. しまり有.

2 層 : 黒褐色火山灰質土 (Hue7.5YR2/2)(基本層序 II 層相当) 粘性有, しまり有.

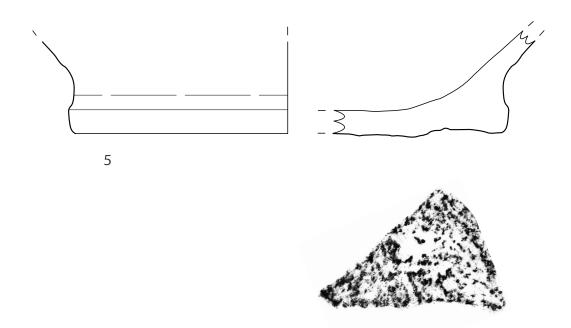
3 層 : 暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4)(基本層序Ⅲ層相当) 粘性有. しまり有.

4 層 : 褐色砂質土 (Hue10YR4/6)(基本層序IV層相当) 粘性有, しまり有. 暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4) を 30%程含む.

5 層 : 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2)(基本層序V層相当) 粘性有, しまり有.

TP12 出土遺物

5は縄文時代晩期の黒川式土器の深鉢の底部であり、裾広がりの形をなしている。内外面はナデ調整されるが、底面は、無調整である。胎土には、角閃石、石英、軽石、雲母を含む。残存高 2.70cm。復元底径は、11.4cm。



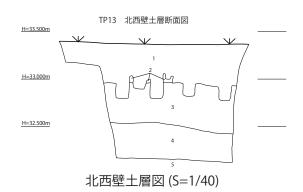
TP12 3 層出土遺物 (S = 1/1)

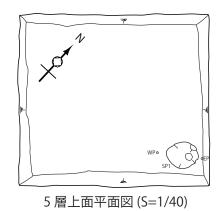
N	o 扂		器種	調整		色調		焼成	胎土	備考
				外面	内面	外面	内面			
5	- 1	~ 1	深鉢	ナデ	ナデ	Hue10YR5/4	Hue10YR6/4	良好	やや精緻	

TP9 出土土器観察表

上一野遺跡【TP 13】

周辺の土層堆積状況と当該地の堆積状況から、TP8と同様の堆積状況であると考えられる。なお、TP13においては2層が現代の耕作を免れ、ごく一部に残存していた。遺構は、3層で時期不明のピット1基(SP1)を確認した。





H=32.900m

SP1 断面図 (S=1/20)

【SP 1 埋土】

1層: にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR4/1) 粘性やや少ない, しまり やや弱.0.1mm以下の土壌主体.0.1cm大の白色粒子を少量含む.



TP13 完掘状況(南より)



TP13 土層堆積状況(南東より)



SP1 完掘状況 (北西より)

1層:表土(耕作土)

2 層: 黒褐色火山灰土 (Hue10YR3/1)(基本層序Ⅱ層相当)

粘性やや弱,しまりやや有.

 $0.2 \sim 0.4$ cm 大赤色粒子少量含む .1cm 大の隅丸デイサイト極少量含む .

1mm 白色粒子少量含む.

3層: にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR4/3)(基本層序Ⅲ層相当)

粘性やや弱,しまり有.

 $0.1 \sim 0.5$ cm 大の隅丸デイサイト少量含む. 雲母片中量含む.

0.1cm 大の白色粒子を中量含む .1mm 白色粒子少量含む.

4層:褐灰色火山灰質土(Hue10YR4/1)(基本層序IV層相当)

粘性やや弱, しまり有.1cm 大の隅丸デイサイト少量含む.1mm 白色粒子少量含む.

0.1mm以下の土壌主体層.

5層: 褐灰色混パミス硬質土 (Hue10YR5/1)(基本層序V層相当)

粘性弱,しまり非常に強.

0.1cm 大のパミスを多量に含む .0.2cm 大の隅丸炭化物を少量含む.

0.1cm 大の雲母片を少量含む.

3 西川遺跡

調査期間:令和3年6月8日~令和3年6月11日

調査面積:3.6m²

調査原因:中原・寺中地区基盤整備事業

調査担当:吉岡

調査概要:

基盤整備前の確認調査として西川遺跡において調査を行った。西川遺跡は島原市三会地 区を流れる西川の下流域に所在する遺跡であり、現在は田畑として利用されている。

当該遺跡は弥生時代の遺跡として周知されており、肥前型器台が出土したことも報告されている [宮崎 2015]。西川遺跡の南西側に 3.6㎡(2 m× 1.8 m)の調査坑(TP1)を設定し、表土より人力掘削した。土層は 6 層に分層した。

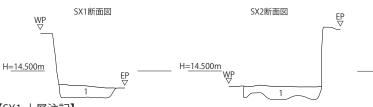
調査の結果、3層上面において2基の不明遺構 (SX1・SX2) を検出した。SX1の埋土は黒褐色砂礫土 (Hue10YR3/2) であり、粘性は弱く、しまりも弱い。粗粒砂主体の土質である。 $1\sim 2$ cm 大の礫を30%程含み、灰黄褐色砂質土 (Hue10YR4/2) をブロック状に15%ほど含む。遺物は出土せず、遺構の用途や時代については不明である。

また、SX2 の埋土は、暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/3) であり、粘性は弱く、しまりを有する粗粒砂主体の土質である。 $5 \text{mm} \sim 1 \text{cm}$ 大の礫を 30% ほど含む。遺物は出土せず、遺構の用途や時代については不明である。

【参考文献】

宮崎貴夫「台付甕と透かしをもつ器台の成立と消滅」『有明海とその周辺をめぐる弥生時代の交流』(長崎県考古学会・九州考古学会合同研究大会、2015年)





【SX1 土層注記】

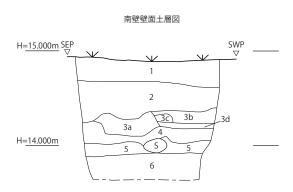
1層: 黒褐色砂礫土 (Hue10YR3/2) 粘性弱, しまり弱, 粗粒砂主体.

1~2cm 大の礫を 30% 程含む.

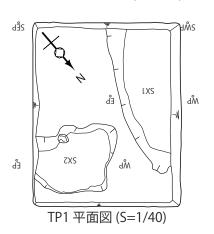
灰黄褐色砂質土 (Hue10YR4/2) 粘性弱 , しまり有 , 極細粒砂主体を ブロック状に 15% 程含む . 遺物なし .

【SX2 土層注記】

1 層: 暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/3) 粘性弱, しまり有, 粗粒砂主体. 5mm~1cm 大の礫を30% 程含む. 拳大の礫を少量含む. 遺物なし.



南壁土層断面図 (S=1/40)





SX1・SX2 完掘状況 (北西より)



TP1 完掘状況 (南西より)

1 層: 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/2) 耕作土 粘性あり. しまりあり.3mm ~ 1cm大の礫を30%含む.

2 層: 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3) 粘性あり. しまりあり.3mm ~ 1cm大の礫を30%含む. 褐色砂質土 (Hue7.5YR4/6)を30%含む. 灰黄褐色砂質土 (Hue10YR4/2)を15%含む.

3 a 層:暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4) 粘性あり. しまりあり.

3 b 層: 黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/3) 粘性あり、しまりあり、粗粒砂主体層、

3 c 層:暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/3) 粘性あり. しまりあり.

3 d 層:極暗褐色砂礫土 (Hue7.5YR2/3) 粘性弱. しまり弱. マンガンを中量含む.

4 層:暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4) 粘性弱. しまりあり.

5 層:暗褐色砂質土 (Hue7.5YR3/4) 粘性弱. しまり非常に強. 褐色砂質土 (Hue7.5YR3/4) を 50% 含む.

6 層: 灰褐色砂礫土 (Hue7.5YR4/6) 粘性弱. しまり非常に強. 暗赤褐色土 (Hue5YR3/4) を 30% 含む.

4 甘木遺跡

調査期間:令和3年7月12日~令和3年7月19日

調査面積:3.6m²

調查原因:東大地区基盤整備事業

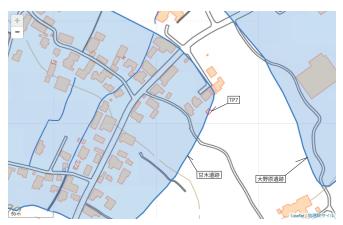
調査担当:山下

調査概要:

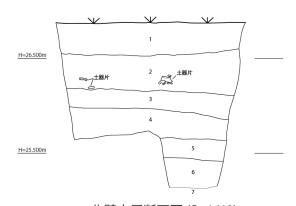
基盤整備前の確認調査として甘木遺跡内の南東端の調査を行った。当該地は西から東にかけてなだらかに傾斜する雲仙火山麓の扇状地上に所在し、現在は畑として土地利用されている。

調査は、3.6㎡ (TP7:2m × 1.8 m) の調査坑を設定し、表土から人力掘削した。 表土下に 2 層黒褐色火山灰質土 (Hue10YR3/1)、3 層にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR5/4)、4 層黒色火山灰質土 (Hue10YR2/1)、5 層黒褐色混パミス硬質土 (Hue10YR6/1)(いわゆるカシノミ層)、6 層黒色火山灰質土 (Hue7.5YR3/1)、7 層明褐色 粘質土 (Hue7.5YR5/6) (大三東ローム層)を確認した。

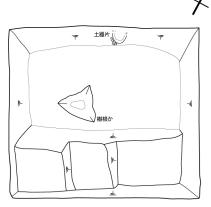
当該地の6層からは、遺物の確認はできなかったが、上下の層の堆積状況や周辺遺跡の土層堆積状況から第3黒色帯の可能性があり、黒曜石が含まれると想定されるため、 事業対象地となった場合、遺物包含層である第2層~第6層まで保護措置について協議する必要があると考える。



甘木遺跡 TP7 配置図

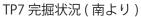


北壁土層断面図 (S=1/40)



TP7 平面図 (S=1/40)







TP7 北壁土層堆積状況(南より)

1 層:表土 耕作土

2 層: 黒褐色火山灰質土 (Hue10YR3/1) 古代の遺物包含層 ややしまりあり. 水分含まない.0.1mm 以下の土壌が主に堆積する. 軽石を含む.

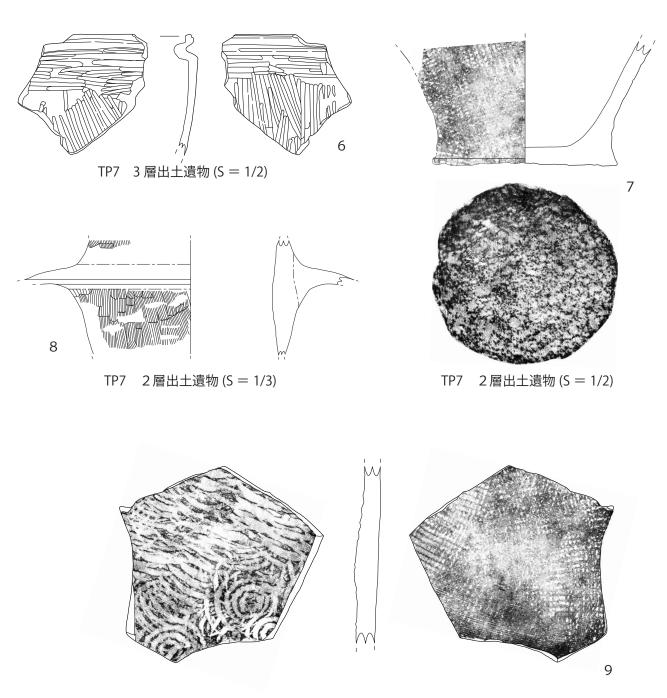
3層:にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR5/4) 縄文後期〜晩期の遺物包含層 ややしまりあり. 水分含まない.0.1mm 以下の土壌が主に堆積する.

4層: 黒色火山灰質土 (Hue10YR2/1) ややしまりあり. 水分含まない.0.1mm 以下の土壌が主に堆積する.

5 層: 褐灰色混パミス硬質土 (Hue10YR6/1) カシノミ層 固くしまる. 水分含まない.

6層: 黒色火山灰質土 (Hue7.5YR3/1) 第3黒色帯か ややしまりあり. 水分含まない.0.1mm 以下の土壌が主に堆積する. 1~4cm デイサイト風化礫少量含む.

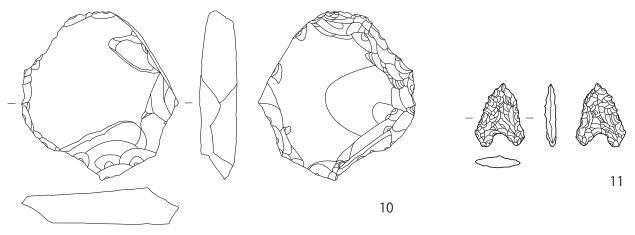
7層:明褐色粘質土 (Hue7.5YR5/6) 大三東ローム層 しまりあり,水分あまり含まない.



TP7 2層出土遺物 (S = 1/2)

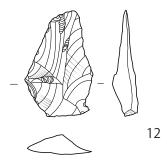
No	層位	器種	調整			焼成	胎土	備考	
			外面	内面	外面	内面			
6	3	浅鉢	ミガキ、	ミガキ	Hue5YR3/1	Hue7.5YR4/3	良好	精緻	
			上部ヨコケズリ、	上部ヨコケズリ、					
			下部タテケズリ	下部ナナメケズリ					
7	2	深鉢	ヘラケズリ	ナデ	Hue5YR5/6	Hue10YR6/4	良好	粗雑	
8	2	甑形土器	ハケメ、ナデ	ナデ	Hue2.5YR6/8	Hue7.5YR7/4	良好	精緻	
9	2	甕	タタキ、	上部タタキ(青海波)、	Hue2.5Y6/1	Hue2.5YR5/1	良好	精緻	
			下部タタキ後	下部タタキ(同心円)					
			ロクロ調整						

TP7 出土土器観察表



TP7 3 層出土遺物 (S = 2/3)

TP7 3 層出土遺物 (S = 1/1)



TP7 2層出土遺物 (S = 1/1)

TP7 出十遺物

6は3層から出土した縄文時代晩期の黒川式土器の浅鉢の口縁部及び胴部片である。内外面ともに丁寧にミガキ調整の上、ケズリ調整されている。胎土には、石英、軽石、金雲母を含む。残存高 6.30cm。7 は2層から出土した縄文時代後期の市来式土器の深鉢の底部である。外面には斜位のヘラケズリ調整が施される。内面は横位のナデ調整が施される。胎土には、雲母、金雲母を含む。残存高 6.3cm、底径 9.8cm。8 は2層から出土した甑形土器である。胎土には、石英、角閃石、赤色粒子、金雲母を含む。残存高 9.1cm、復元径 26cm。9 は2層から出土した須恵器甕である。胎土には、柘英、軽石、雲母を含む。残存高 9.3cm。10 は3層から出土した安山岩製のスクレイパーである。11 は3層から出土した黒曜石製の石鏃である。基部は抉入が浅く、脚部が短い。12 は2層から出土した黒曜石製の剥片尖頭器である。基部に自然面が残りツルツルした肌触り(ツルハダ)である。

No	層位	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
10	3	スクレイパー	安山岩	6.70	6.20	1.45	63.17	
11	3	石鏃	黒曜石	1.65	1.30	0.30	0.46	
12	2	剥片尖頭器	黒曜石	2.80	1.75	0.60	1.88	

TP7 出土石器観察表

5 寺中 B 遺跡

調查期間:令和3年7月12日~令和3年7月28日

調査面積:7.2㎡

調査原因:中原・寺中地区基盤整備事業

調査担当:吉岡

調査概要:

基盤整備前の確認調査として寺中 B 遺跡において調査を行った。寺中 B 遺跡は寺中川と中野川に挟まれた河岸段丘上に位置しており、現在は田畑として土地利用されている。 寺中 B 遺跡の北東部に 3.6㎡ (TP6:2m × 1.8 m)、北西部に 3.6㎡ (TP7:2 m× 1.8 m) の調査坑を設定し、表土から人力掘削した。

TP6 を設定した畑地は南に隣接する畑地から1m程低い土地である。TP6においては、表土下に褐色砂質土 (Hue10YR4/4)が堆積しているものの、暗褐色混パミス硬質土 (いわゆるカシノミ層)を角柱状に70%含んでいるため、耕作により撹拌されているものと考えられる。この層の上面で不明遺構 (SX1)を検出したが、人為的なものであるか判然としなかった。3層は黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3)に黒褐色パミス硬質土 (Hue10YR2/2)がブロック状に混じる層である。4層は暗褐色粘質土 (Hue7.5YR3/4)であり、粘性が極めて強い。また、表面が風化した黒曜石の小片が含まれているため、旧石器時代の遺物包含層の可能性がある。5層は褐色粘質土 (Hue7.5YR4/6)で4層同様に粘性が極めて強い。下位に拳大〜人頭大からなる礫層を確認したため、当該層位をもって完掘面とした。

TP7 も西側に隣接する畑地とは 1.5m 程の比高差があり、畑地造成による削平をうけていると考えられた。調査の結果、表土の下に黒褐色パミス硬質土 (いわゆるカシノミ層)を確認したため、これより上位に位置する遺物包含層は削平により滅失しているものと考えられる。

ただし、カシノミ層の上面において遺構を 4 基 (ピット 3 基・土坑 1 基) 検出した。このうち、SP1 内からは完品の土師質小皿 (中世) が出土した。小皿は上向きに出土したことから、人為的に埋納された可能性も考えられ、地鎮等の行為の所産であることも想定できる。

その他の遺構からは遺物が出土せず、用途や時期については不明である。



寺中B遺跡TP配置図

寺中B遺跡【TP6】



SX1 検出状況 (東より)



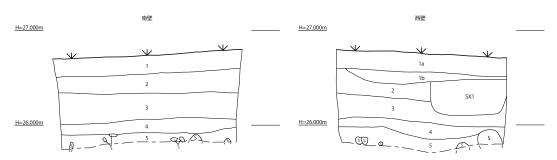
SX1 半截状況 (東より)



SX1 完掘状況 (東より)



TP6 完掘状況 (北より)



TP6 土層断面図 (S = 1/40)

【土層注記】

1層:暗褐色砂礫土(Hue7.5YR3/3)現表土.

粘性有, しまり有.1cm 大の礫を30%程含む.

2 層: 褐色砂質土 (Hue10YR4/4)

粘性有,しまり有.

暗褐色混パミス硬質土 (Hue10YR3/4) が角柱状に 70% 程混じる.

3 層: 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3)

粘性有,しまり有.

黒褐色混パミス硬質土 (Hue10YR2/2) がブロック状に 15% 程混じる.

4層:暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4)

粘性極めて強い,しまり有.風化した黒曜石を含む.

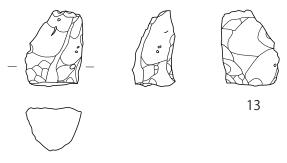
5 層: 褐色粘性土 (Hue7.5YR4/6)

粘性極めて強い,しまり有.

下位に拳大~人頭大の礫を多量に含む.

TP6 出土遺物

13 は 4 層から出土した黒曜石の石核である。表面は風化している。不純物は少ない。

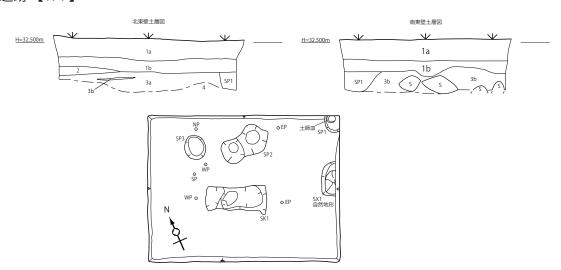


TP6 4層出土遺物 (S = 1/1)

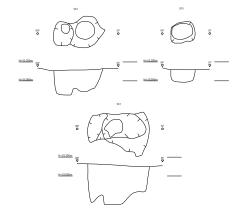
No	層位	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
13	4	石核	黒曜石	2.00	1.50	1.05	3.60	

TP6 出土石器観察表

寺中B遺跡【TP7】



TP7 平面図・土層断面図 (S = 1/40)



【SP2・SP3 土層注記】

1 層: 暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4) 粘性有, しまり有. 3b 層をブロック状に含む.

【SK1 土層注記】

1 層: 黒褐色砂質土 (Hue10YR2/3) 粘性有, しまり有. サラサラとした土質.

遺構実測図 (S = 1/20)

【土層注記】

1 層: 黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR2/2) 現表土.

粘性有, しまり有.2mm~1cm大の礫を70%程含む.

2 層: 暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3)

粘性有,しまり有.

3a 層: 暗褐色砂質土 (Hue10YR3/4)

粘性有,しまり有.

黒褐色混パミス硬質土 (Hue10YR2/3) がブロック状に 50% 程混じる

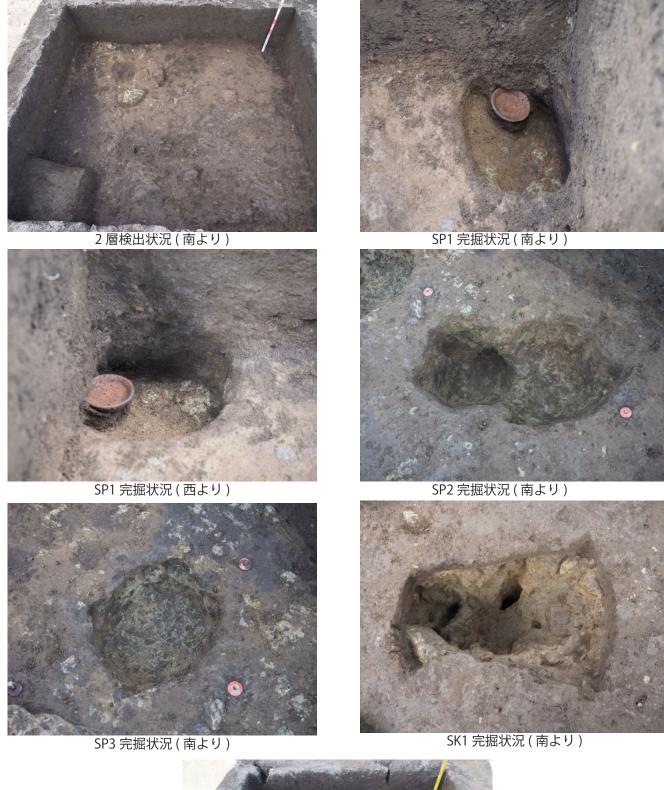
3b 層: 黒褐色混パミス硬質土 (Hue10YR2/3)

粘性弱,しまり極めて強.

4 層: 明黄褐色砂礫土 (Hue10YR6/6)

粘性極めて弱.しまり非常に強.

角閃石や石英を多分に含み火砕流による堆積の可能性がある.

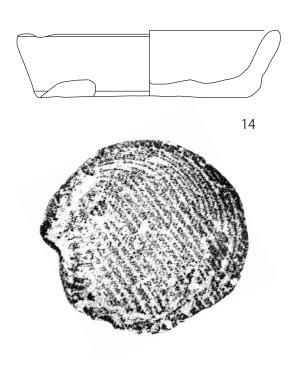




TP7 完掘状況(西より)

TP7 出土遺物

14 は SP1 から出土した中世のかわらけである。ロクロ成形され内外面ともに口縁部から体部にかけてナデ調整され、見込みはユビオサエが見られる。底部は、回転糸切りを行いスダレ状の敷物においたと考えられる圧痕が確認できる。また、外面底部付近に切り離し時についたと考えられる指圧痕も確認できる。



TP7 SP1 出土遺物 (S = 1/1)

No	層位	器種	調整		色調	色調		胎土	備考
			外面	内面	外面	内面			
14	3	かわらけ	ナデ	ユビオサエ	Hue5YR5/6	Hue5YR5/6	非常に良好	精緻	地鎮遺構(SP1)
			底面回転糸切り						出土
			後スダレ状圧痕						

TP 7 出土土器観察表

6 寺中城跡

調査期間:令和3年11月8日~令和3年11月30日

調査面積:9㎡

調査原因:中原・寺中地区基盤整備事業

調査担当:大津・吉岡・山下

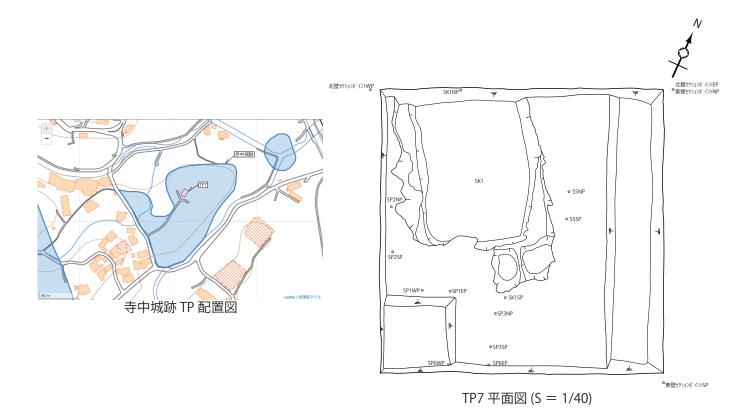
調査概要:

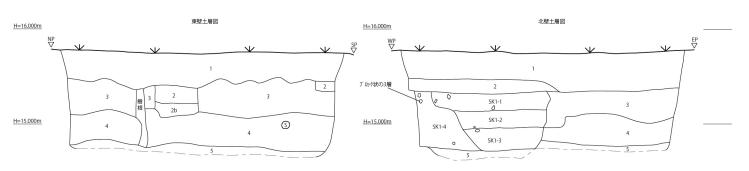
基盤整備前の確認調査として寺中城跡の一部の調査を行った。寺中城跡の北東方向に 9 ㎡ (3 m×3 m)の調査坑 (TP 7)を設定し、表土から人力掘削した。土層は5 層に分層した。

TP 7の表土は、黒褐色砂礫土(Hue7.5YR 3/2)粘性あり、しまりあり。2mm~1 c m大の礫を30%程含む。現耕作土。表土から陶磁器等の破片を採取した。2層は、褐色砂質土(Hue10YR4/4)粘性あり、しまりあり。弥生土器、黒曜石等を出土した。2 b 層は褐色砂質土(Hue10YR4/4)粘性あり、しまりやや弱(パサパサ)極細粒砂主体の層。3層はにぶい黄褐色混パミス硬質土(Hue10YR4/3)粘性弱、しまり非常に強い。乾燥すると縦方向にクラックを生じる(いわゆるカシノミ層)。4層は暗褐色砂質土(Hue10YR3/4)粘性あり、しまりやや強。白色粒(パミス)を含む。暗褐色砂質土(Hue10YR3/3)を粒状(粒径3mm~3 c m)あるいはブロック状に15%程含む。この層より黒曜石が多数出土。5層は褐色粘質土(Hue7.5YR4/6)粘性やや強、しまりあり。5mm~3 c m大の火山性礫を15%程含む。(いわゆる大三東ローム)この層からは遺物の出土はなし。

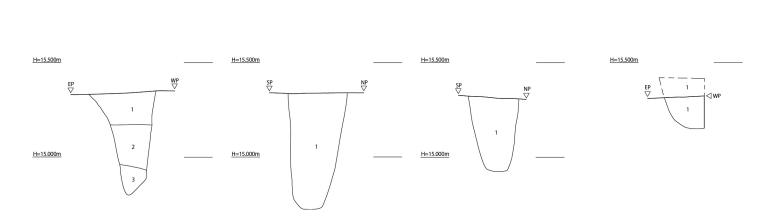
TP 7内から遺構として、土坑1基とピットを4基確認した。

土坑は4層からなり、1層は暗褐色砂質土(Hue7.5YR 3/3)粘性あり、しまりあり。 遺物として弥生土器片を出土した。2層は、褐色砂質土(Hue7.5YR4/3)粘性あり、 しまりあり遺物として押型文土器等3片、安山岩及び黒曜石が出土した。3層は黒褐色砂 質土(Hue7.5YR3/2)粘性あり、しまりあり。弥生土器及び黒曜石を出土。弥生時代 以降に土坑の人為的な埋め戻し等があったのではと考えられる。4層については、褐色砂 質土(Hue7.5YR4/4) 粘性あり、しまりあり。出土遺物はなかった。ピットは、SP 1 は3層からなり、1層は、褐色砂質土(Hue7.5YR4/3)粘性ありしまりやや弱い。2層 は灰褐色砂質土(Hue7.5YR4/2)粘性ありしまりやや弱い。3 層褐色砂質土(Hue7.5YR4/2) 粘性あり、しまりやや弱い。全層とも細粒砂主体で礫を含まない。SP2 は 1 層のみ。にぶ い黄褐色火山灰土 (Hue10YR4/3) 水分なし、ややしまりあり。0.7mm 以下の土壌主体層。 5mm 大の炭化物(角状)を少し含む。2.5cm 大のデイサイトを含む。SP3 も 1 層でにぶ い黄褐色火山灰質土(Hue10YR4/3)で水分なし、しまりあまりなし。0.1mm 以下の土 壌主体層。0.1mm 以下の白色粒を少し含む。SP 3 (旧 S4) の遺物として縄文土器 1 点 が出土。SP 6 も 1 層からなり褐色砂質土(Hue10YR4/4)で粘性ありややしまりやや弱。 細粒砂主体。礫等混入なし。S5 については、自然のものでピットではなかったことを確認。 (大津)





TP7 土層断面図 (S = 1/40)



遺構実測図 (S = 1/30)

【土層注記】

1 層: 黒褐色砂礫土 (Hue7.5YR3/2) 現表土

粘性有, しまり有.2mm \sim 1cm 大の礫を 30% 程含む.1 \sim 3mm 大の白色粒子(軽石)を 15% 程含む.

2 層: 褐色砂質土 (Hue10YR4/4) 縄文時代~中世の遺物を含む. 粘性有, しまり有.3mm~1cm大の火山性礫を15%程含む.

2b層: 褐色砂質土 (Hue10YR3/4)

粘性有. しまりやや弱(パサパサ). 極細粒砂主体の層. 2~5mm 大の礫を15%程含む.

3層: にぶい黄褐色混パミス硬質土 (Hue10YR4/3) カシノミ層 粘性弱, しまり非常に強, 乾燥すると縦方向にクラックを生じる.

4 層:暗褐色砂質土(Hue10YR3/4)

粘性有, しまりやや強. 白色粒子(パミス)を含む. 暗褐色砂質土 (Hue10YR3/3) を粒状(粒径 3mm ~ 3cm) あるいは、ブロック状に 15%程含む.

5 層: 褐色粘質土 (Hue7.5YR4/6) 大三東ローム層 粘性やや強. しまり有. 5mm ~ 3cm 大の火山性礫を 15%程含む.

【SP1 土層注記】

1 層: 褐色砂質土 (Hue7. 5YR4/3)

粘性有,しまりやや弱.細粒砂主体で礫を含まない(サラサラ).

2 層: 灰褐色砂質土 (Hue7. 5YR4/2)

粘性有,しまりやや弱.細粒砂主体で礫を含まない(サラサラ).

3 層: 褐色砂質土 (Hue7. 5YR4/4)

粘性有,しまりやや弱.細粒砂主体で礫を含まない(サラサラ).

【SP2 土層注記】

1層: にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR4/3)

水分なし, しまりやや有.0.1mm以下の土壌主体層. 5mm大の角状炭化物少量含む.

2.5cm 大のデイサイトを含む.

【SP3 土層注記】

1層: にぶい黄褐色火山灰質土 (Hue10YR4/3)

水分なし, しまりあまり無.0.1mm以下の土壌主体層.

0.1mm 以下の白色粒子少量含む. 縄文土器片 1 点出土.

【SP6 土層注記】

1層:褐色砂質土 (Hue10YR4/4)

粘性有,しまりやや弱.細粒砂主体で礫を含まない(サラサラ).

【SK1 土層注記】

1層:暗褐色砂質土(Hue7.5YR3/3)

粘性有, しまり有. にぶい黄褐色混パミス硬質土 (Hue10YR4/3) をブロック状に 15%程含む. 極細粒砂主体層. $1 \sim 2 \text{mm}$ 大の礫を 30%程含む.

2 層: 褐色砂質土 (Hue7.5YR4/3)

粘性有. しまり有. にぶい黄褐色混パミス硬質土 (Hue10YR4/3) をブロック状に 15%程含む.

3 層: 黒褐色砂質土 (Hue7.5YR3/2)

粘性有 , しまり有 . 褐色砂質土 (Hue7.5YR4/4) を 1 \sim 2mm 大のブロックで 2%程含む.

デイサイト質の風化礫を含む.

4 層: 褐色砂質土 (Hue7.5YR4/4)

粘性有,しまり有.極細粒砂主体層で、TP7 北壁で確認. 東側に傾斜して堆積しており、SK1 が 人為的に埋戻された可能性あり.



完掘状況(東より)



TP7 北壁土層堆積状況(南より)



TP7 東壁土層堆積状況(南西より)



SK1 半截状況 (東より)



SP1 完掘状況(北より)



SP2 完掘状況(東より)

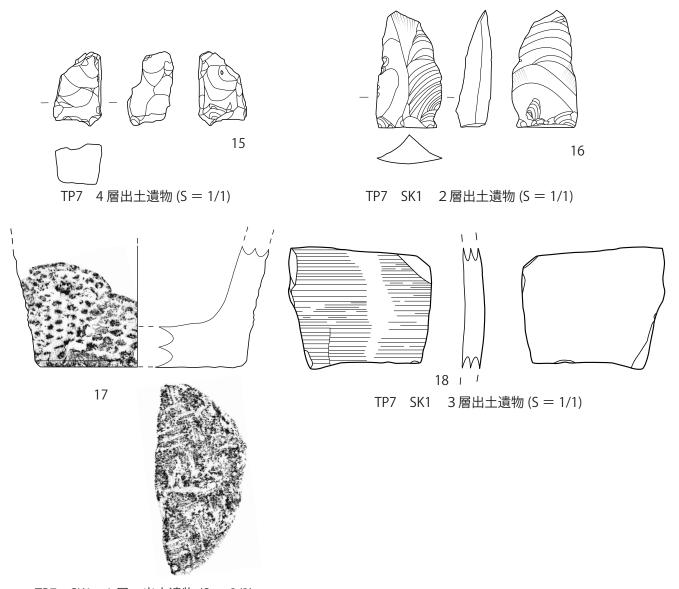




SP6 完掘状況(北より)

TP7 出土遺物

15 は 4 層から出土した黒曜石製の石核である。表面は風化している。不純物は少ない。16 は SK 1 の 2 層から出土した黒曜石製のナイフ形石器である。表面は風化している。17 は SK 1 の 1 層から出土した縄文時代早期の楕円押形文土器の深鉢底部片である。内部及び底部はナデ調整を施している。胎土は、軽石、角閃石、黒雲母、金雲母、石英を含む。残存高 4.8cm。復元底径 8.8cm。18 は SK 1 の 3 層から出土した弥生土器片である。外面はハケメ調整、内部はナデ調整が施される。胎土は、軽石、石英、雲母、角閃石を含む。残存高 3.2cm。



TP7 SK1 1層 出土遺物 (S = 2/3)

No	層位	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
15	4	石核	黒曜石	1.95	1.30	1.15	3.31	
16	SK1 2層	ナイフ形石器	黒曜石	3.10	1.70	0.85	3.14	

TP 7 出土石器観察表

No	層位	器種	調整		色調		焼成	胎土	備考
			外面	内面	外面	内面			
17	SK1 1層	深鉢	横位楕円押型	ナデ	Hue7.5YR6/6	Hue5YR5/6	良好	精緻	
18	SK1 3層	不明	ハケメ	ナデ	Hue5YR5/6	Hue5YR5/6	良好	精緻	

TP 7 出土土器観察表

第2節 民間事業に伴う範囲確認調査

1 島原城跡

調査期間:令和3年9月28日~令和3年9月30日

調査面積: 2.275㎡

調查原因:浄化槽埋設工事

調查担当:山下

調査概要:

当該地は、島原城跡三ノ丸北側の外塁線内に位置する。西から東に向かい緩やかに傾斜がある。

浄化槽設置部分に 1.75 m× 1.3 mの調査坑を 1 か所設定し最大深度約 1.2 mまで人力掘削し調査を行った。当該地は表土下に現代の住宅造成土と住宅地開発前の現代の耕作土を確認し、その下位は、基盤層と考えるデイサイト風化礫層を確認した。遺構や明確な遺物包含層の確認はできなかった。

浄化槽設置部分の土層確認を行い、遺構や明確な遺物包含層の確認はできなかったことから、当該工事は慎重工事で対応可能と考えるが、当該地周辺は島原城跡であるため、今後、周辺で土木工事等が行われる場合は、分布調査や範囲確認調査等を実施し、『長崎県指定史跡島原城跡保存活用計画』に則った保護措置を講じる必要がある。



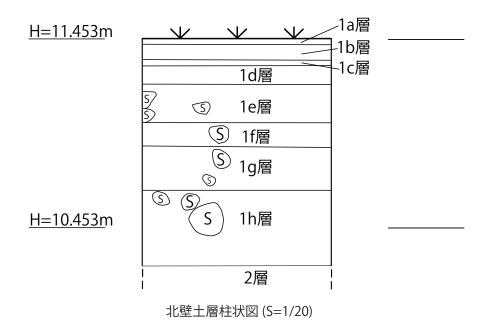
調査坑配置図



完掘状況(西より)



土層堆積状況(東より)



【土層注記】

1a層:表土

1b層:客土

1c層:砕石

1d 層: 三和土

1e 層: 客土(砂利). 人頭大のデイサイトを積む.

上部は固くしめてある.ビニールが混じる.

1f層: 客土. 上部は固くしめてある. 瓦やビニールが混じる.

1g層: 耕作土. 暗青灰色を呈す. 粘性やや有, しまり弱.

ビニールやプラスチックが混じる. 潟土のように臭いあり.

1h 層: 客土. 粘性やや有, しまり有.

拳大~人頭大の礫が混じる.プラスチックが混じる.

2 層: 灰オリーブ礫層 (Hue7.5Y4/2)

デイサイト風化礫層 (岩盤). 粘性やや有, しまり非常に強.

 $1 \sim 2.5 \text{ cm}$ 大の隅丸デイサイトを多量に含む. 鉄分が沈着.

第3章 総 括

令和3年度は主に基盤整備事業に先立つ範囲確認調査を実施した。

上一野遺跡においては、平成30年度の調査以来の範囲確認調査であり、遺跡範囲全域に調査坑を設定し遺物包含層の残存状況を確認することができた。また、遺跡範囲外にも遺物の散布が認められたことや、範囲確認調査の結果、旧石器・弥生・古墳の遺物を確認したことから遺跡範囲と遺跡対象時期の変更を行った。今後、事業主体である長崎県振興局と遺跡の保護について調整を行っていく必要がある。

寺中 B 遺跡では TP7 の 3 層上面で 4 基の遺構を確認し、うち SP1 内からは完品の土師質小皿 (中世)が出土した。寺中 B 遺跡においては令和 3 年度の調査成果を踏まえ、当初の調査計画に調査坑を追加する必要があると考えられたため、追加調査について調整を行い令和 4 年度に調査を実施した。

寺中城跡においては城跡の最高所に調査坑を設置した。遺物はナイフ形石器 (黒曜石製)、押型 文土器、弥生土器などが出土しており、西川と寺中川に挟まれた河岸段丘上の当該地において中世 以前より連綿と人々が生活を営んできた場所であることが明らかとなった。

令和3年度の調査においては、令和2年度の長崎県による発掘調査の成果も踏まえ、パミス硬質 土 (いわゆるカシノミ層) 下位も含めて調査を実施した。その結果、上一野遺跡・寺中 B 遺跡・寺中城跡で旧石器時代の遺物が確認された。これらのことから、今後も近隣遺跡で調査を行う場合には、旧石器時代の遺物包含層の存在を想定し実施することが重要である。こうした積み重ねにより、これまで判然としなかった本市域における旧石器研究の発展に繋がることが期待される。(吉岡)

遺物写真

上一野遺跡 出土遺物



上一野遺跡 TP6 4 層出土遺物



上一野遺跡 TP9 3 層出土遺物



上一野遺跡 TP9 6 層出土遺物



上一野遺跡 TP9 4 層出土遺物



上一野遺跡 TP12 3 層出土遺物



5 (外面)

甘木遺跡 出土遺物



7



甘木遺跡 TP7 2 層出土遺物

甘木遺跡 出土遺物



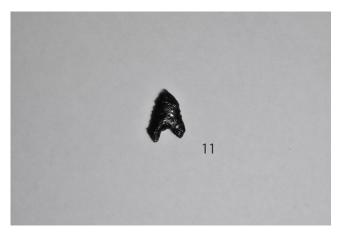


甘木遺跡 TP7 2 層出土遺物





甘木遺跡 TP7 3 層出土遺物



甘木遺跡 TP7 3 層出土遺物



甘木遺跡 TP7 2 層出土遺物

寺中 B 遺跡 出土遺物



寺中 B 遺跡 TP6 4 層出土遺物



14 (外面)



寺中 B 遺跡 TP7 SP1 出土遺物

寺中城跡 出土遺物



寺中城跡 TP7 4 層出土遺物



16

寺中城跡 TP7 SK1 2層出土遺物



17

寺中城跡 TP7 SK1 1 層出土遺物



18

寺中城跡 TP7 SK1 3 層出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しまばらしない	いせきは	はんいかくにん	ちょうさほ	うこくしょ	に				
書名	島原市内遺跡範					副書名 令和3年調査分				
シリーズ名	島原市文化財調					番号 第 21 集				
編著者名	山下祐雨 吉岡	慈文		,						
編集機関	島原市教育委員	会								
所在地	〒 859-1492	長崎県島	原市有明町大	三東戊 132	7番地 TE	L 0957-68-5473				
発行年月日	令和5年(2023	↑和5年(2023)3月								
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経		田木五年	三田木店口		
所収退跡石	P/T往地	市町村	遺跡番号	0/ //	01 //	一調査期間	調査面積	調査原因		
下源在高野	有明町		7.5	00/40/40	100/10/0	00010510 0511	4 2			
 遺跡	大三東丁		75	32/49/43	130/19/2	8 $20210510 \sim 0511$	4 m²	基盤整備事業		
(SD)	有明町							基盤整備事業		
上一野遺跡	1		84	32/49/38	130/20/3	1 $20210525 \sim 0826$	28.8m²	坐血正 师		
	大三東甲						2	++ 如果 ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++		
西川遺跡	亀の甲町	203	15	32/49/15	130/21/3	$3 \mid 20210608 \sim 0611$	3.6m²	基盤整備事業		
 甘木遺跡	有明町		73	32/50/41	130/10/5	8 20210712 ~ 0719	3.6m²	基盤整備事業		
	大三東丁		13	32/30/41	130/13/3	0 20210712 - 0719	3.0111			
寺中 B 遺跡	寺中町		12	32/49/23	130/20/4	8 20210712 ~ 0728	7.2m²	基盤整備事業		
寺中城跡	中野町		13	32/49/24	130/21/	1 20211108 ~ 1130	9m²	基盤整備事業		
島原城跡	新馬場町		45	32/47/50	130/21/5	6 20210928 ~ 0930	2.275m ²	浄化槽埋設		
			•			•		•		
所収遺跡名	種別		主な時代	主な		主な遺物		特記事項		
下源在高野	遺物包含地		縄文	_	-			Δ45° +-1 -+-Δ, η η Δ.		
 遺跡						_		継続協議		
医助.	遺物包含地		旧石器 / 縄文	ピット 16 3	<u> </u>					
上一野遺跡						黒曜石・縄文土	器	継続協議		
	100 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11		/ 弥生 / 古墳					Δ4:- +- 1 -+- \ 1.1.Δ.		
西川遺跡	遺物包含地		<u>弥生</u>	不明遺構 2				継続協議		
	遺物包含地		弥生 / 古墳			縄文土器・弥生土器・	須思器・	継続協議		
甘木遺跡				_	-	黒曜石製石鏃・安山岩	製スクレ			
						イパー				
					-	[7] 7 7		継続協議		
	State C. A. D.		→1.11. 1.1.1±	ピット3基	基、土坑1	Laren mana		小に小りし DDD 日子 X		
寺中B遺跡	遺物包含地		弥生 / 古墳	基、不明遺構 1 基		土師器・黒曜石				
					111 1 生					
ale, I. I. Dest	城館跡		中世	ピット4基		押型文土器・弥生土器	• 黒曜石	継続協議		
寺中城跡				 土坑 1 基		 製ナイフ形石器				
	 城館跡		 近世	エガレエ 生	_	表 / 1 / ル / 目 fi -				
	ウルドロドル,		쓰트			<u> </u>				

島原市文化財調査報告書 第21集

島原市内遺跡範囲確認調査報告書 2 【令和 3 年度調査分】

発 行 月:令和5(2023)年 3月

編集・発行:島原市教育委員会

長崎県島原市有明町大三東戊 1327 番地

Tel: 0957-68-5473

印 刷:三会印刷

長崎県島原市亀の甲町乙 1657番地1

Tel: 0957-65-4155